

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870901473		
法人名	特定非営利活動法人 エコロジーネットワーク		
事業所名	グループホーム エコ西宮		
所在地	西宮市薬師町5-50		
自己評価作成日	令和 4年 4月 8日	評価結果市町村受理日	令和4年8月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気です利用者・スタッフがお互い身近な立ち位置で気軽に声を掛け合っていて過  
 ぎている。  
 利用者それぞれの状況・状態を把握し気配りをしてサポートしている。  
 (認知の度合で利用者同士がうまくかみ合わない場面がある。)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_topiigvosyo\\_index](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和 4 年 7 月 6 日		

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から少し入った閑静な住宅街に建てており、商業施設や医療機関なども近く交通の便  
 が良い。開設20年目を迎え利用者の意思を尊重する事を最重要視し、すぐに手を出すのではなく利用者  
 の様子を観て待つ介護に努めている。コロナ下で思うように外出できない状況で、利用者はリハビリ  
 を意識して廊下を行き来したり、テレビ体操やレクリエーションに取り組み、楽しみのある日常を過ごし  
 ている。職員はその日の体調や歩行状態等を把握する為、毎日の申し送りを大切にし情報共有に努め  
 ている。在籍年数の長い職員が多い中、技能実習生を含めた海外からの職員も多く、管理者は技術や  
 業務内容、コミュニケーションについて工夫している。全職員が同じ方向に向かい、利用者の心身の状  
 態が安定し、楽しみのある生活が継続するよう努めていただきたい。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに掲示して共有できるようにしている。	職員は利用者の思いや行動を優先し、同居者のような視点で見守りを重視した支援に努めている。利用者どうしの関係性は笑顔でうかがい知ることができ、家族の安心に繋がっている。理念は、事業所内に掲示しているが対外発信はしていない。	理念を、広報紙に記載し対外発信されてはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会がないため、声をかけられた催事に限られるが、できるだけ日常的に交流できるように努力している。	運営推進委員の一員である、民生委員からの声掛けで敬老会に参加した。他事業所のバザー等にも参加し交流の機会を作っている。隣接する他事業所から合同の避難訓練等の誘いがある。	隣接する事業所との合同避難訓練実施をぜひ実現されてはいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や理髪店などで会話や動作などを見て理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの対応などで意見を聞かせてもらったり、他の施設の状況などを聞かせてもらい参考にしている。	運営推進会議は、家族代表や民生委員、権利擁護委員、他事業所職員等で構成されている。コロナ下で書面開催であり同封した書式にそれぞれの立場で、感染対策に対する励まし等が返送され職員の励みになっている。次回から対面開催の予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時連絡を取り協力していただいている。	市からコロナワクチン接種に関する情報や、知見を有する者として運営推進会議に参加するよう、他事業所職員のリストが届く。事業所からは、市の担当科に特定の利用者の葬儀費用の相談をする等、問い合わせをすることがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	対象となる方はいないが、前回玄関の施錠について意見をいただき時間を決めて解放するようにしている。	身体拘束適正化委員会は、定期的で開催しており委員を中心に研修会をしている。玄関は、時間帯や利用者の様子を見ながら開錠する時間を作っている。契約時に家族から、転倒などの事実を聞き、事業所でも起こり得るリスクがある事を伝えている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今現在は講習に参加はできませんが、ミーティング等で声掛けの仕方など、小さなことでも見過ごされないように努めている。	身体拘束適正化委員会と兼ねて、会議や事業所内研修を行っている。職員の不適切な言葉かけがあれば、管理者がその場で職員を呼び確認する事がある。事業所内でのスピーチロックに関する研修で、言葉掛けについての改善方法を話し合っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方はいないが、スタッフは権利擁護に関する制度は理解している。	事業所にパンフレットを置き、運営推進会議で権利擁護委員から、制度について話して貰う事がある。職員は以前の研修で、一定の理解はしているが、新人や外国籍の職員に研修の機会がない。	運営推進委員の地域の知見者や、前職で経験がある職員に依頼し、権利擁護の研修をされてはどうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明している。	契約時は、事例を挙げながら時間をかけ、詳細に説明して理解を得ている。事業所が出来る事と出来ない事も、事例を伝えている。ターミナル承諾書は家族アンケート方式で記入を依頼し、意思確認書を本人から聴き取る事もある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を聞き、家族様にも連絡し、迅速に意見要望を反映させている。	利用者の要望は、個人的な内容がほとんどであるが、本人の意思を尊重し家族と相談しながら支援している。毎月発行する広報紙に、利用者の写真を掲載し生活の様子等を家族に発送しており、事業所での様子が良く分かるとの意見を聴いている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能な限り反映している。	申し送りのミーティング等で、業務の割り振りや新規入居者受け入れ等を話し合い、聴いた意見を参考に運営に活かしている。管理者が職員の悩みなどを聴くこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況は把握、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習が可能であれば参加しているが、今現在は施設内で研修を行っている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により現在は行っていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と、話せる時間を十分に確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族様の相談にしっかり対応させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネが柔軟に対応する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、身近な関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が安心していただけるように、何かあればその都度連絡をいただけるようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人の方の訪問は可能な限り受け入れるようにしている。	携帯電話を持っていたり、手紙が届く利用者もある。コロナ下で少なくなったが、兄弟の訪問や昔の職場の同僚が訪ねて来たことがある。制限していた面会は状況を見ながら再開する予定である。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、レクの工夫・各個人の状態にあった関わり合いをして支えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に連絡や相談を受けられるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き、家族様と相談している。	利用者の、半数程度は言葉で思いを伝える事が出来るため、本人の意思を優先し支援している。コミュニケーションが取りにくい利用者には、丁寧に何回も繰り返し伝え、うなずきや態度などを確認しながら働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握するために、ご家族・それまで関わっておられたケアマネから情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・有する力は生活の中で把握し、協力医からの心身の状態などの指示書にて把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にてプランを作成し家族様に了解をもらい現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。	3か月毎に担当者がモニタリングを記入しケアマネが確認している。ケアマネは、担当者会議開催後6か月毎に介護計画書を作成している。家族には介護計画書を送付し了承を得た上で、意見等の記載を返信してもらっている。介護計画書作成前に、家族の意見を聴く仕組みにはなっていない。	介護計画書作成前に、家族の話聴く仕組み作りをされてはいいか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、スタッフにわかるようにしている。申し送りによって実践に反映出来るようにしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況にその都度対応して、ニーズに合った支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、ボランティアの受け入れや地域の他施設との交流などにより楽しみながら生活出来るようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望を尊重しその人に合った受診、看護が受けられるように支援している。	利用者、家族の意向を優先し、ほとんどが事業所の協力医療機関を希望し、日常の健康管理が行われている。それ以外にも、心療内科や歯科の訪問診療や、眼科の往診は希望により可能で、特に心療内科の利用は多くなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師・訪問看護師に適切な受診、看護を受けられるようにしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院ができるように病院関係者との関係づくりを行っている。	新型コロナによる感染が広がって以来、利用者の入院はほとんど無い状況である。協力医療機関や訪問看護師等の密な連携により、利用者の体調変化等に対する予防、早めの対応が可能となっている。入院の際は、速やかに協力医療機関へつなぐ体制ができている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と医師が直接相談し、方針を決めた後、当施設で支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所のできる事、できない事を伝え、看取りに関する指針も併せ説明している。その際に可能であればターミナル同意書のやり取りをするが、意思確認ができない場合は、家族のアンケートから意向を汲み取るようにしている。まだ看取りは行っていないが、協力医療機関と協力して体制は準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しいスタッフが多いため、すべての場面での応急手当というのは不可能な面もあるが指示に従って少しずつ実践力を身に付けている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。	今期は8月、11月に夜間想定を含む避難訓練と、市からの依頼により5月に洪水を想定した訓練を行った。事業所横の側溝から雨水が溢れる可能性があり、2階へ垂直避難した。停電時の対策が課題となっている。	今後、対面での運営推進会議開催を受け、近隣事業所等との協力体制を築くための対策を検討されてはいかがか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれに個性を考慮した対応を心がけている。	利用者の動きや表情から思いを汲み取り、待つ様子を見ることが大事であることを、常々伝えている。管理者は利用者個人の持っている力やペースを尊重することで、その人らしさが保たれると考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞く事、理解して生活していただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に一人ひとりのペースを大切に、希望に沿うよう支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、また本人の希望に沿うように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に力に違いはあるが出来る範囲で行えるようにしている。	ケータリング会社により食事提供しているが、利用者の好み等で食べられない場合は、事業所で用意している。日曜日は休みのため、時にはホットプレートで焼きそばを作ったり、食べたい物を買ってきて一緒に調理、食べることもあり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事、水分の摂取量を記録し状態の把握、必要に応じて協力医に報告し指示を仰いでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。 必要に応じて、歯科医師に訪問してもらう。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けをしっかりと行い、トイレでの排泄を行えるように支援している。	利用者の多くは、自分でトイレに行っているが、動きやすさ、表情をみて、職員が声をかけたり、さりげなく誘導することもある。職員が、早めに利用者の様子から察知することで失敗を減らし、パットを使用している人は使用量を減らすことにつながっている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎朝の体操、ウォシュレットを使用するなどの便秘予防に努めている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番を変えたり、また個人のプライバシーを尊重して入浴を楽しんでもらっている。	週2回をベースとして職員から声をかけたり、誘っている。はじめは気分がのらない場合でも、時間をずらしたり、タイミングを見計らって誘い無理強いはしていない。一人でゆっくり、くつろげる機会として大事にしている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じて休息してもらったり、就寝時間を決めている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングで現在服用中の薬などの確認を行っている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かしたのものや、役割などで楽しみ、競い合いなどで気分転換をしている。		



自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り散歩に出かけたり、買い物に出かけられるよう努めている。	コロナ禍ではあったが、事業所前の花の水やりをしたり、周辺を散歩するなど外気浴の時間はできるだけとるように務めている。利用者からの要望で、近くのスーパーにお菓子や日用品を買いに行くこともある。感染状況をみながら、散歩など気軽に外に出る機会を持ちたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人は所持していないので、施設が立替をして希望に応じるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感・感染予防を重視して、居心地よく安心して暮らせるようにしている。	外に出る機会が減っているが、利用者自ら廊下を歩き来したり、ビデオを見ながら積極的に体を動かし、利用者同士で誘い合うなど、楽しく動けるように工夫をしている。換気や室温調整には注意し、清潔な環境を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり過ごしたり、利用者同士リビングでゆっくり過ごしてもらえるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には寝具以外は全て使い慣れたものを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	利用者は、すぐ手に取れるところに身近な日用品を置くなど、その人なりに暮らしやすく過ごせるよう工夫している。馴染みの趣味の小物を飾ったり、時には好きな本を読んだり、テレビを観て一人の時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・エレベーターがあり、必要に応じて利用し、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(様式2)

事業所名:グループホームエコ西宮

## 目標達成計画

作成日: 令和4年8月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I	運営理念を玄関に掲示しているが、普段はあまり見ることがなくなっている。	事業所理念を作り管理者と職員が常に理念を共有し実践につなげる。	施設の広報誌などに常に記載し对外発信含め施設内でも共有出来るようにする。	0か月
2	III	全ての利用者が重度化した場合や終末期の在り方について、早い段階から家族等と方針を共有する取り組みをする。(年齢だけで判断し家族の思いを伺っていない方がいる)	タイミングを見計らって家族の意向を伺う。	介護計画更新時か次回採血後、採血の結果をもって家族の意向を伺う。	1か月
3	III	地域には自治会がなく災害時に地域との協力体制が築けていない。	民生委員の方に声掛けをして利用者の情報提供をし、状況などを知って頂く。	今現在はコロナウイルス感染症陽性者が急増に伴いすぐには動けないが、落ち着いてきたら民生委員の方や隣の施設などに訪問し交流をはかる。	月
4					月
5					月

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )